

## 令和5年5月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 令和5年4月28日（金）午前10時30分～11時15分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ6社 10名

### 会見内容

#### 1. 話題提供（4項目）

##### 1 阿寒湖及び周辺地域の世界自然遺産登録に向けた研究成果の発信について

- まず、阿寒湖のマリモ並びに周辺地域の世界自然遺産登録に向けた研究成果の発信についての話題です。
- いよいよヨーロッパの科学誌「ハイドロバイオロギア」に阿寒湖沼群・マリモ研究室の若菜室長の論文が掲載されました。
- この背景については、世界自然遺産の登録に向け取り組んでいく中で、世界で有名な論文は少なく、今まで若菜さんを中心に研究してきたものを発信していきながら、共通の土台を構築していこうと進めてきました。この研究成果をしっかりと書いた論文を若菜さんが発表し、できるだけ多くの方に見ていただくため、様々な科学誌に投稿しましたが、論文を確認する審査員が一般的に読まれている科学誌の方になかったため、発表をすることができなかったところです。
- そこで、より専門性の高い科学誌に若菜さんの論文を提出したところ、半年で評価され、ヨーロッパ・オランダの科学誌「ハイドロバイオロギア」の電子版で発表されました。
- 是非、評価され、掲載されたものですので、見ていただきたいと思います。
- 現在、英文で公表されており、市ホームページに掲載しています。また、全訳版も5月中旬をめどに市ホームページに掲載します。
- この論文で阿寒カルデラ湖沼群の類い稀な生態系が明らかにされ、世界自然遺産登録を目指す上で大きな意義を持つものと考えており、この論文の掲載を契機に前に進めたいと考えています。

##### 2 釧路市中小企業・小規模事業者活性化補助金の申請受付について

- 続いて、釧路市の中小企業・小規模事業者活性化補助金（ビズサポ補助金2023）の申請受付についてです。
- この補助金は、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えて、売上アップや人材確保などに積極的に取り組んでいく市内の中小企業・小規模事業者が実施する新製品や新サービスの開発、販売促進や店舗改修といった様々な取り組みを支援するものであり、昨年から引き続き実施するものです。
- 令和5年度は、新たに取り組みを始める事業者を対象とする「一般型」に加えまして、令和4年度にビズサポ補助金の交付を受けた事業者を対象とする「チャレンジ型」を新たに設けるものです。
- 「チャレンジ型」はビズサポ補助金を活用したことで、賃上げや雇用増を実現した事業者、そして、国の持続化補助金が不採択となった事業の「復活枠」のメニューを用意しております。
- 補助率と補助上限額は、「一般型」が補助率3分の2、上限額が30万円。「チャレンジ型」の「賃上げ枠」、「雇用増枠」が補助率4分の3、上限額が50万円。「復活枠」が補助率3分の2、上限額が30万円です。

- 補助金の申請受付期間は、5月15日（月曜日）から6月2日（金曜日）までであり、申請方法は原則オンライン申請となっており、先着順であります。予算額（2,000万円）に到達次第、受付終了という仕組みとなっております。
- 私どもとしては、ビズサポ補助金2023を活用いただきながら、積極的に経済を前に進めていきたいと考えております。

### 3 釧路市省エネ等設備導入補助金の申請受付について

- 続いて3点目は、省エネ等の設備導入の補助金で、通称「エネ補助」といいます。
- この補助金は、令和4年度新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の繰越明許費を活用し、令和4年度に続き、原油高・物価高対策として実施するものです。
- 基本的には省エネを進めていきながらコストを抑え、あわせてカーボンニュートラルの取組を連携させるものです。そういった意味での「エネ補助」と捉えていただきたいと思います。
- 申請受付は令和5年5月15日（月曜日）から令和6年2月29日（木曜日）までとしています。
- 「先端設備等導入計画」の手続きに時間を要しますことから、早めの準備をいただきたく、本日の話題としております。
- これから「エネ補助」の申請が始まりますので、ご活用についてよろしく願いいたします。

### 4 姉妹湿地からの訪問団の来釧について

- 続いて、姉妹湿地からの訪問団についてということで、湿地を通じ、私どもが関係している、オーストラリアのニューキャッスル市から「ハンター河口湿地」で活動されている皆様が来釧します。
- 平成5年（1993年）に「ラムサール条約締約国会議」が釧路で開催されて今年で30年になります。1993年に釧路会議が開かれ、翌年の1994年に、「オーストラリアのハンター河口湿地」と釧路のラムサール条約登録湿地が姉妹湿地提携を結んでいます。
- この関係のなかで、何年かに一回、交流をしていますが、5月12日から14日の日程で、ハンター河口湿地で活動されている「ハンター・バード・オブザーバーズ・クラブ」から8名のメンバーと、姉妹湿地があるニューキャッスル市のニューキャッスル大学の教員1名、合計9名がお見えになるということでもあります。姉妹湿地訪問団は、今年で11回目ということです。
- 今回も、「日本野鳥の会釧路支部」、「釧路国際交流の会」、「猛禽類医学研究所」の協力をいただき、市内におきます野鳥観察や市民交流を予定しております。
- 先ほどもお話ししたとおり、今年はラムサール条約締約国会議から30年記念ということで、今一度また、釧路湿原がラムサール条約に登録され、釧路会議が開催されたことを振り返り、そして、湿地の保護・保全について、今後の取り組みをしっかりと進めていくためのシンポジウムを行うなど、30周年の記念事業を行っていききたいと考えています。
- この他、30周年記念事業として、スタンプラリーなど、様々な事業を行っていく予定です。
- そのような中で、訪問団が釧路に来ていただくことも、良いきっかけにしていききたいと考えているところです。

## 2. 質疑要旨

(質問)

- ・ 阿寒湖周辺の世界遺産登録はいつから取り組んでいたのか。また、阿寒湖周辺地域とはどこの地域まで含まれているのか。最後に釧路国際ウェットランドセンターは公益法人なのか市の機関なのか教えていただきたい。

(市長)

- ・ 阿寒湖は、寒冷地である気温など様々な要素が集まり、極めて稀な環境が出来上がっていると同時に、湖沼の中でエリアごとに一つひとつ環境が違っております。このような環境は世界の中で他に存在しません。最初は平成24年にまずはマリモが出来上がった環境を含めた取り組みから始まっております。

(環境保全課課長補佐)

- ・ 釧路国際ウェットランドセンターは、国（環境省）、北海道、管内市町村（釧路市、釧路町、標茶町、鶴居村、厚岸町、浜中町）、湿地保全団体で構成されており、釧路市が事務局を担っています。若菜先生は釧路国際ウェットランドセンターの顧問として研究活動をされています。法人格はございません。

(質問)

- ・ ビズサポ補助金について、財源がなくなった中で継続される意図は何ですか。

(市長)

- ・ 様々なことがコロナから復活していく中で、まだ停滞している部分があります。そこできっかけづくりを行うことで、様々なことにチャレンジしていただきたいと思っています。コロナも5月8日には2類から5類に変更されますが、世の中はまだまだ経済も含め復活していない状況でありますので、いち早く少しでも前に進んでいただきたいという考えで実行していくものです。

(質問)

- ・ 経済的な回復ということで、市が予算を出して行っていくということですか。

(市長)

- ・ その通りです。地元の会社が経済や人を含め地域を支えています。地元の会社にしっかりと儲けていただくため、k-Biz（ケービズ）による伴走型支援も行っています。それほど大きな額ではありませんが、少しでも前に進んでいただく取り組みとして、市独自の中で行っていくものです。

(質問)

- ・ 「チャレンジ型」を作った意図は何ですか。

(市長)

- ・ 一度終わるとなかなか次がないということがあります。設備投資や人材確保、店舗改修など様々な項目がありますので、昨年度と違った内容で取り組んでいただきたいです。何度でもとはいきませんが、1社でも多くの企業に取り組んでいただければという思いです。

(質問)

- ・ クレイنزについて、昨年に続き給与の遅配が発生してしまい、市としてチームの経営状況や選手への思いを率直にお聞かせください。

(市長)

- ・ シーズンが終了し、スポンサーを交えたパーティーに私も出席させていただき、選手の皆様ともお話をさせていただきました。本当に厳しい環境の中ですが、来期もさらに良い成績に向けてハードスケジュールや人数が少なくなった中で一生懸命頑張り進めているところであります。アイスホッケー、クレイنزがこの地域にあることは、私たちにとって

のひとつの自信であり、支えである存在でありますので、ここはしっかり頑張っていたきたいと思います。

ただその中で、経営の問題等があります。確かにコロナ禍で観客席いっぱいに入ることができなかつたりしていましたが、これからクリアされていくものと考えていますので、スポンサーも含めしっかりとした明確な方針とクリアな経営に対応していただきたいと思います。

私どもはクレインズの存在を氷都くしろとしてサポートしていきたいという基本的な考え方はずっと持っています。

(質問)

- ・ 今期も補助は続ける考えですか。

(市長)

- ・ 基本的にはクレインズを残すためにしっかりとバックアップしていこうと思っています。ただし、現状の経営の問題について、給料の問題も含め様々なことを伺っています。私どもはその給料に対する支援ではなく、クレインズの存在に対して支援していくものですので、そのためには経営のこともしっかりと示していただかないと対応は難しいと思っています。そこが明確になるまでは、企業版ふるさと納税などは停止し、解決後にはまたしっかり対応してまいります。

(質問)

- ・ 3月に決算が出て、1億3千万円の赤字が計上されました。経営の問題が前からあったうえで、今回の市の支援事業は、市として断った対応としたのですか。

(市長)

- ・ 経営状況の中でどのような形で行くかということです。コロナ禍の中で赤字のところは支援しませんということではありません。いろいろなことをしっかり行っていく中で、スポンサーはバックアップも寄付もされています。そういった中で経営の信頼性や透明性が重要です。選手の給料などは真っ先に対応されるべきものだと思います。氷都くしろとして、またクレインズの選手の気持ちも含めて、何とか継続させていこうということでもありますので、そういった意味での信頼性や透明性でありますことから、重要だと思っています。そのところに疑義が生じていますので、そこをクリアされるまでは、停止せざるを得ないと考えて進めているところです。

(質問)

- ・ 昨年も不透明な所がありましたが、支援すると決めたのは何故ですか。

(市長)

- ・ 昨年はスポンサーも含めた中で、一定程度の信頼性や透明性がありました。確かに課題はありましたが、解決に向けてしっかりやっけていこうという立ち位置で行ったものです。今はそういう状況になっていませんので、明確になるまでは様々な支援を停止せざるを得ないということです。

(質問)

- ・ 公金を投じている以上、経営に透明性が必要ということだと思いますが、昨年の冬には給料の遅配は発生していたと聞いております。その段階から市長は把握されていなかったか。

(スポーツ課課長補佐)

- ・ 今年の1月に経営陣より給与の12月と1月の2か月分、遅配の報告がありました。

(市長)

- ・ 市に報告が来ている中で、何とかクリアしていただきたいと思いながら進めているところです。その後のスポンサー会議が終わった中で、スポンサーからも色々な話が出てきているところであり、昨年の状況とは変わってきていると受け止めているところです。

(質問)

- ・ 先日終わった市議選について3点伺います。1点目は新人が9名入ることによって市議会が大きく変わりますので、議会に対する期待感を伺います。

2点目は投票率が40%ちょっとと大きく下がりましたが、市長は政治家としてどのように受け止めていますか。また、市としては投票率アップのためにイオンに投票所を設けるなど色々行っていました。そこからさらに投票率アップのためにできることはありますか。

3点目は釧路に限ったことではなく、アクセスが集中したことが原因だとは思いますが、当日の開票速報がつながりづらい状況でしたので、サーバの増強など考えられていますか。

(市長)

- ・ 私が平成5年に初めて市議会議員に当選した時も定数40名に対し新人が11名でした。今回も定数28名に対し9名ですから、3分の1になりますので、こういったタイミングであると強く思っているところです。民主主義の中でも間接民主主義が重視されており、市民の代表である議員の皆様と話をし、また、議員の皆様が訴えていることを踏まえていながら、どのように進めていくのかを考えていくことが、議会であり、まちづくりであると考えておりますので、新たな皆様の発想や経験などを聞かせていただきながらより良い形になるように、一体となって進めていきたいと考えています。

投票率については、41%を切ってしまいました。私なりに危機感を持っているところです。先ほども言いましたが、間接民主主義が極めて重要であります。色々進めていくにあたり背景や歴史を踏まえ、色々な分野の中でどうするか議論を積み重ねることが必要であり、しっかり説明していくことが必要であると考えています。その中で投票率が低いということは、議会にとっても市役所にとっても、また市民にとってもいいことは一つもないと思っています。投票に行くことで関心につながってくるものと思っています。そこで「投票は権利だ」という言葉がよくないと思っています。「権利」は「行使する」という言い方もあれば「放棄する」という言葉もあります。ですから、「投票は社会参加、まちづくりへの参加」だと思っていただきたいとあらゆる場面で話をしましたが、なかなか成果が上がりませんでした。「参加する」ことが関心を高めていくことだと思っていますので、まちづくりや社会づくりを進めていくうえで関心が低くなってきますので、危機感を持っているということです。

今後も何とか投票率を上げていく努力をしていきたいと思っています。その中では、これまでもあらゆる場面で投票の必要性の話をして、期日前投票を含め投票時間の拡大や投票場所の拡大を進めてきましたが、成果が出ておりませんので、既存のことを継続しつつも新たな取り組みが必要だと思っています。管内では標茶町が行っていましたが、移動の投票なども考えていく必要があると思っています。市内では公立大学や教育大学、高専などがありますので、学校に相談しながら取り組みを進めていければと考えているところです。

開票速報がつながらなかったことに関しては、サーバがパンクしないようにブロックする機能だと聞いております。そういったことを踏まえると、LINEやFacebookを活用し、情報を出していく方法で対応していきたいと考えているところです。

(質問)

- ・ 開票速報は30分おきに更新されますが、それをLINE等で発信するということですか。

(市長)

- ・ その通りです。

(質問)

- ・ 移動投票所は過疎地対策というイメージですが、市長はそれを若年層対策として考えているのですか。

(市長)

- ・ ということですが、全国的に見ると都市部でも行っているところはあります。昔は地域の代表が立会人をし、地域の人が投票に来ていましたが、今はイオンで行っているようにその限りではありません。問題は投票率を上げることですので、そのためには若い層の部分を進めていければと思っており、実体を踏まえながら検討したいと思っています。

(質問)

- ・ 新型コロナウイルスの5類移行について、5月8日以降、市役所の中で何か撤去するなどの対応を考えているものはありますか。

(健康推進課長)

- ・ 5月8日以降の対応については、現在検討中であり、来週中には決まる予定です。

(質問)

- ・ 市議会選挙について、阿寒地域と音別地域選出の議員がいなくなりました。改めて両行政センターや懇談会など市役所の関わりが大事になってくると思いますが、今後どのように地域の方の声を聞いていくのかお聞かせください。

(市長)

- ・ 議員の方々には、地域や業界などの枠組みがありますが、その中でも地域は重要な要素だと思っています。その中で、阿寒や音別に居住している候補の方はいませんが、立候補した多くの方が阿寒本町や阿寒湖畔、音別を訪れ選挙活動されたと伺っております。そういった中で、意見を押しや議会の中で意見をいただけるものと思っています。

私どもも行政センターがありますので地域の情報を捉えていきながら連携を密にして進めていきたいと思っています。合併した自治体ですので、一体感を持つことは重要ですが、その地域の特性や歴史を押しやえながら進めていくことがまた重要だと思っていますので、さらに注意しながら市政を進めてまいりたいと思います。